

# 「自分を信じてチャレンジ」

ファイザー株式会社 太田 敦子

私は、大学で有機化学を専攻し、製薬会社に入社後、7年半の間、探索研究をしていましたが、会社の方針変換がきっかけで別の道を歩むことになり、現在は CMC (Chemistry Manufacturing and Controls) で、新薬の承認申請に必要な化学、製造、品質に関する文書を作成する仕事をしています。今回の依頼を受けて、皆さんに何を伝えられるのだろうかと考えた結果、私がこれまで歩んできた人生について綴ってみようと思いました。人生の岐路はそれほど経験していない私ですが、それでも、ここぞという場面で何かを考え判断してきたからこそ、今の自分があると思っています。読者の皆さんにとって私の人生が少しでも参考になればと思います。

## 大学時代

医療に関する仕事がしたいと思っていた私。それなのに理学部に入学してしまった私。理学部から医療に関する世界へ進むことが出来るのだろうか？大学入学当時からそんなことを考えていました。そんな心配が杞憂に終わったのは、学部3年、研究室を決める時期でした。各研究室を卒業した先輩方の就職先を調べていたところ、有機化学か生物化学を専攻した多くの方が製薬会社に就職していることを知ったのです。それまで製薬企業＝薬学だと思い込んでいた私ですが、自分にもチャンスがある、そう感じた瞬間でした。「調べてよかった。」そう思ったことを今でも覚えています。化学実験が好きだった私は、中でも厳しいと評判の有機化学の研究室へと進んだのでした。何事も、事前にしっかり情報収集することは必要ですね。

## 探索研究の日々

研究室生活を経て、幸運にも製薬会社で化学研究の職を得た私。入社して初めて、合成系の研究職には理学、工学、薬学と様々な分野の人が集まっていることを知りました。考えてみれば、創薬研究というのは合成しないことには始まらないわけで、化学合成に関する研究室であれば、出身は薬学でも化学でも工学でも関係ないのです。学生時代の私は、そこまで考えることができませんでした。薬学の知識は業務の中で学ぶことが出来るので特に困ることもなく、まるで学生時代の延長のような感じで私の社会人人生はスタートしました。

さて、私が配属されたのは、合成系の中でも、テクノロジーを使って短時間に多種多様な化合物を効率良く合成し、開発候補品の種を創出したり最適化したりする部署でした。いわゆるコンビナトリアルケミストリーというものです。大学では見たこともない合成機器、精製機器を利用して、手合成とは比較にならないスピードで化合物を合成していきました。似て非なる性格を持つ化合物の集合を、同一操作で合成・精製できるように反応条件を設定する。いかに万能な反応条件を見つけるかというところに、手合成とは異なる面白さを感じていました。けれども、経験が蓄積し、万能な反応の種類が増えていくとともに、業務がルーチン化しはじめました。それと同時に、大量のデータを処理できるように、ソフトを利用して化合物をデザインしたり結果解析をしたりするようになりました。実験室で白衣を着て作業することが仕事のはずなのに、パソコンの前で考えている時間の方がはるかに長い・・・次第に、業務を面白いと感じることが出来なくなり、創薬研究に対する興味も薄らいでいきました。

## 転機

私は、時々、「本当に今の仕事をしていきたいのだろうか？」と自問することがあります。そんなときは大抵、仕事に迷いが生じているときなので、悩んだ挙句に「わからない」という答えが出るのですが、創薬研究に対する興味が薄らぎ始めて2年ほど経ったある時、遂に「いいえ」という答えが出てしまったのです。一度決めたことに対して曲げない頑固な一面もある私。2年も考えて出た結論がそう簡単に変わるはずもなく、どうにかしないといけないと感じました。

「何をしたいのか？」

「今のスキルで何が出来るのか？」

とにかく、自己分析と自分のスキル分析を、時間をかけて行いました。そして「もっと患者さんを身近に感じる仕事がしたい」「合成や分析の知識が活かせる仕事ならできる」という自答結果をもとに、自分の進む方向（チャレンジできる仕事）を抽出していきました。でも、道は定まっても、今ある状況を打ち破ってまで職を変えることは意外に難しく、なかなか足を踏み出せずにいたのです。ちょうどそんな時でした。会社の方針変換が私の背中を後押ししてくれたのです。幸運再び、希望する職種への社内異動のチャンスにも恵まれ、結果的に、私の転職活動は社内異動という形であっけなく終了してしまいました。

今、振り返ってみて思うのです。「もし、何がしたいのか考え始める時期がもっと遅かったら？」。おそらくタイミングを逃して社内異動できなかったことでしょう。未経験ゆえに他で希望の職種につけたかどうかはわかりません。日頃から自分の心の声に素直に耳を傾けていて良かった。心からそう思った出来事でした。

## CMC という仕事

研究よりも患者さんを身近に感じ、合成や分析の知識が活かせる仕事。私が研究の次に選んだ仕事は CMC 業務でした。学生時代には存在すら知らず、社会人になってからも、何やら申請に関係しているらしい、ということしかわからなかった仕事。研究と比べると業務スタイルがまったく異なります。

合成は、研究の中でも第一走者。しかも、扱う相手は文句を言わない化合物。個人のペースで仕事を進めることができるのです。コミュニケーション力や問題解決力など、ビジネスで必要とされるスキルも最低限は必要ですが、何よりも重要視されるのは合成する能力です。

一方、CMC の場合、業務上の相手は社内外の人間です。しかも、中間走者だから、バトンを渡されれば走り、そして次の走者に渡さなくてははいけない。時にはコースや走り方、目標タイムまで決められ、時間に追われて大騒ぎしていることもあります。

CMC 業務に限らず言えることですが、多くの人が限られた時間内でいくつも並行して仕事をする中で、改めて大切だと感じるがあります。それは、お互いを認め合うこと、協力し合うこと、一人で抱え込まずに相談すること、頑張ったけどもう無理だーと思う前に助けを求めること。簡単そうだけど、なかなか出来ない事なのですよ。

## 最後に

学生の皆さんには、「ぜひ自分の進みたい世界を見つけてください。そして、いろいろな仕事にチャレンジしてください。」とメッセージを贈りたいと思います。仕事とは、時代、世の中、自分の人生設計など、様々な要因により変わるものだと思います。違う世界を見ることで、視野が広がり、新たな発想が生まれます。変わることは成長する上で自然なことなのです。だから、臆することなく社会の門を開いてください。皆さんが同じ社会人として活躍されることを期待しています。

最終学歴：金沢大学大学院

自然科学研究科 物質化学専攻

現職：ファイザー株式会社

CMC薬剤科学部